



末梢神経-免疫連関による 痛覚制御メカニズム

田中 達英 先生

国立長寿医療研究センター神経免疫システム研究部 部長

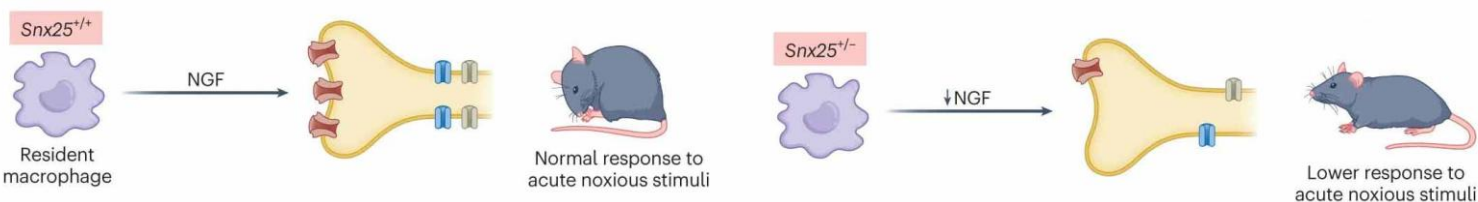
2016年3月まで本学解剖学講座に所属。今回は10年ぶりの凱旋講演となります。

講演要旨

末梢組織に加わる感覚刺激は、一次求心性神経を介して脊髄や脳へ伝達され、知覚として認識される。これまでの痛み研究は主として痛覚伝導路に着目してきたが、近年では、脊髄におけるミクログリアやアストロサイトなどの非神経細胞が、慢性疼痛の発症・維持に重要な役割を果たすことが明らかとなっている。一方、末梢組織における感覚受容機構には未解明な点が多い。我々は、マクロファージと末梢神経間のシグナル伝達が、病的疼痛のみならず、生理的な機械刺激の感受にも重要であることを明らかにした。さらに、骨髄由来マクロファージが、生理的痛覚から病的疼痛に至るまで、感覚受容をシームレスに制御している可能性を見出した。本セミナーでは、これらの研究成果をもとに、神経-免疫連関による痛覚受容機構について紹介する。

Nat Immunol, 2023

Tanaka et al. *Dermal macrophages set pain sensitivity by modulating the amount of tissue NGF through an SNX25-Nrf2 pathway.*



日時： 2026.7月8日（水）16:30-17:30

場所： 機器センター3F カンファレンスルーム